

「子どもの権利に関するアンケート調査」結果

—ダイジェスト版—

士別市は、子どもたちが生き生きと育つことができる、子どもにやさしいまちをめざして、子どもの権利についての約束「子どもの権利に関する条例」をつくりました。

この「子どもの権利に関するアンケート調査」は、子どもの権利についての意識や実態を把握するとともに、第3次「士別市子どもの権利に関する行動計画」策定の参考資料とするために実施しました。

アンケートの結果を見て、「子どもの権利」が守られるために、どうしたら良いのかを考えてみましょう。小学生の保護者のみなさまは、お子さまと一緒に考えてみましょう。

調査の概要

調査期間 令和3年8月25日～9月3日

調査対象 小学5年生、中学2年生、高校2年生の児童生徒、及びその保護者

□児童・生徒 420人

□保護者 420人

調査内容 自己肯定感、居場所、意見表明、悩み、相談、子どもの権利、新型コロナの影響など

回収率 □児童・生徒 333人(79.2%)

□保護者 303人(72.1%)

（「子どもの権利に関する条例」前文より抜粋）

- ・子どもは、愛情をもって育てられることを願っています。
- ・子どもは、人と比べられるのではなく、一人ひとりの個性が大切にされ、自分らしく生きることを願っています。
- ・子どもは、いじめや虐待がないことを願っています。
- ・子どもは、犯罪や事故のない安全な暮らしを願っています。
- ・子どもは、子どもだからといって、発言をさえぎられないで、自分の意見を聴いてほしいと願っています。
- ・子どもは、自由に参加し、意見を発表できる場所があることを願っています。
- ・子どもは、友だちや仲間と一緒にさまざまなことにチャレンジすることができます。

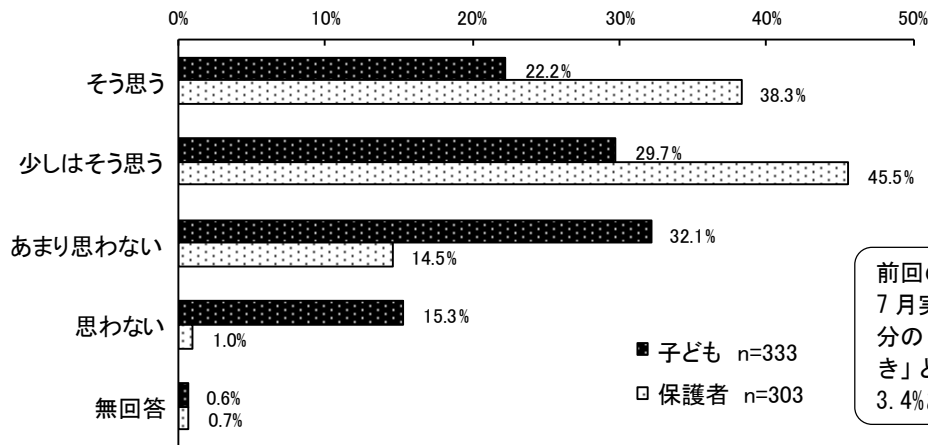
※市内の小・中・高校生20名が集まり、子どもの権利についての学習や話し合いの結果を「子どもの願い」としてまとめています。



1. 子ども自身の思いと、保護者が考える子どもの思いについて

(1) 自己肯定感（自分のことが好きだと思うか）

自分のことが「好きだと思う」「少しは好きだと思う」という児童・生徒は51.9%でした。これは、保護者が考える子どもの自己肯定感（児童・生徒が自分自身のことを「好き」「少しは好き」と回答する保護者83.8%）に比べると低く、子どもと保護者の思いに差があると言えます。



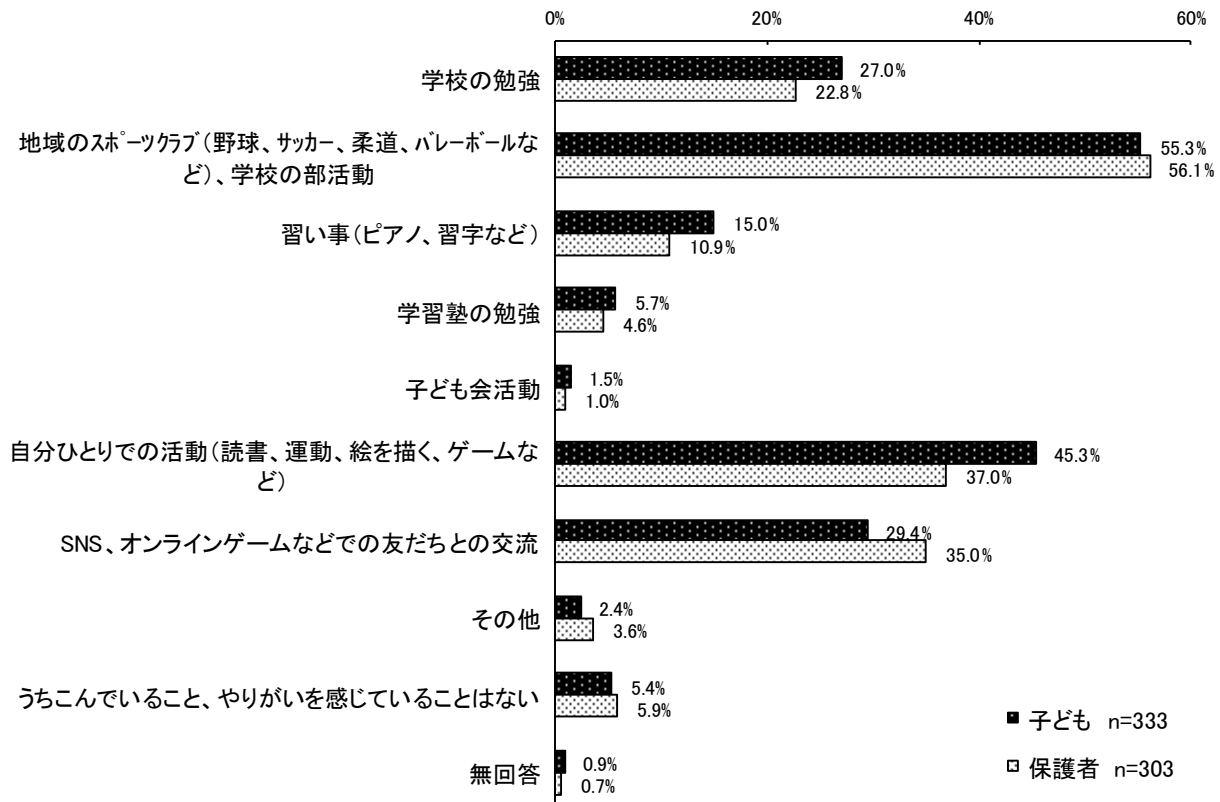
前回のアンケート（平成29年7月実施）結果と比べると、自分のことが「好き」「少しは好き」と思う児童・生徒の割合が3.4%あがっています。



2. 学校生活などに関すること

(1) うちこんでいること、やりがいを感じていること

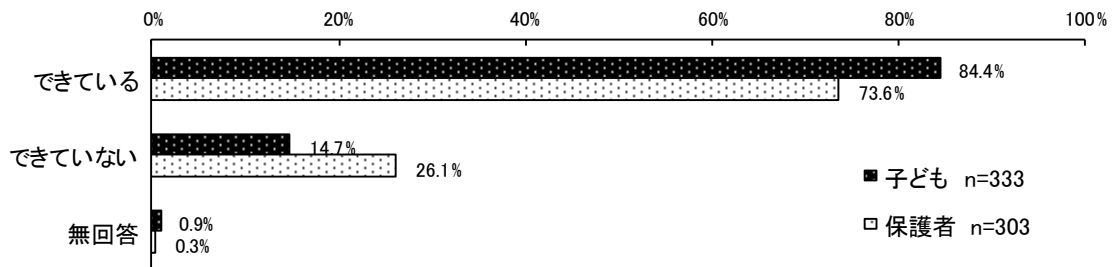
児童・生徒、保護者とも「地域のスポーツクラブ、学校の部活動」の割合が高く、次いで「自分ひとりで活動」となっています。



(2) 子ども自身がやりたい活動に参加できているか

児童・生徒、保護者とも「参加できている」割合が高くなっています。

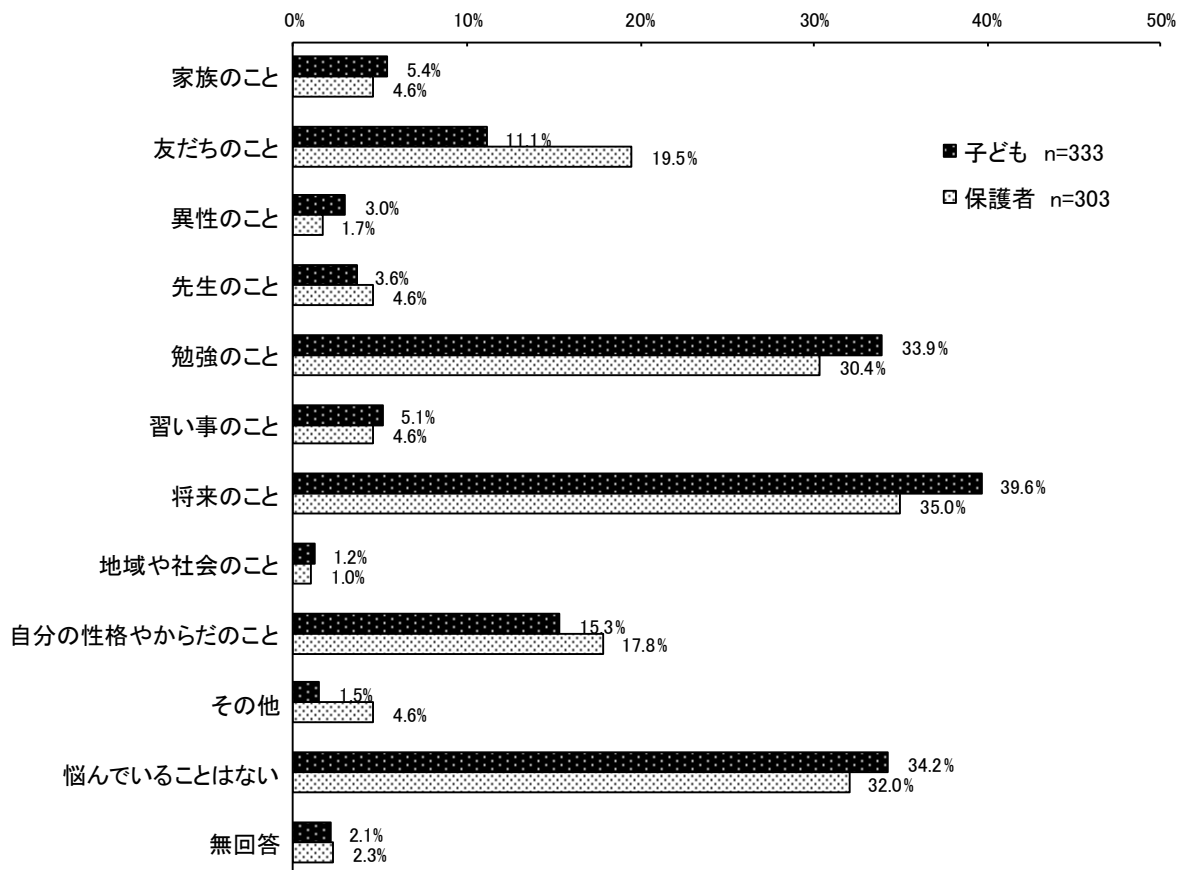
今回新たに追加した設問です。



「参加できていない」主な理由は、「入りたい部活動や習い事がないから」、「勉強などで忙しいから」となっています。

(3) 困ったり、悩んだりしていること

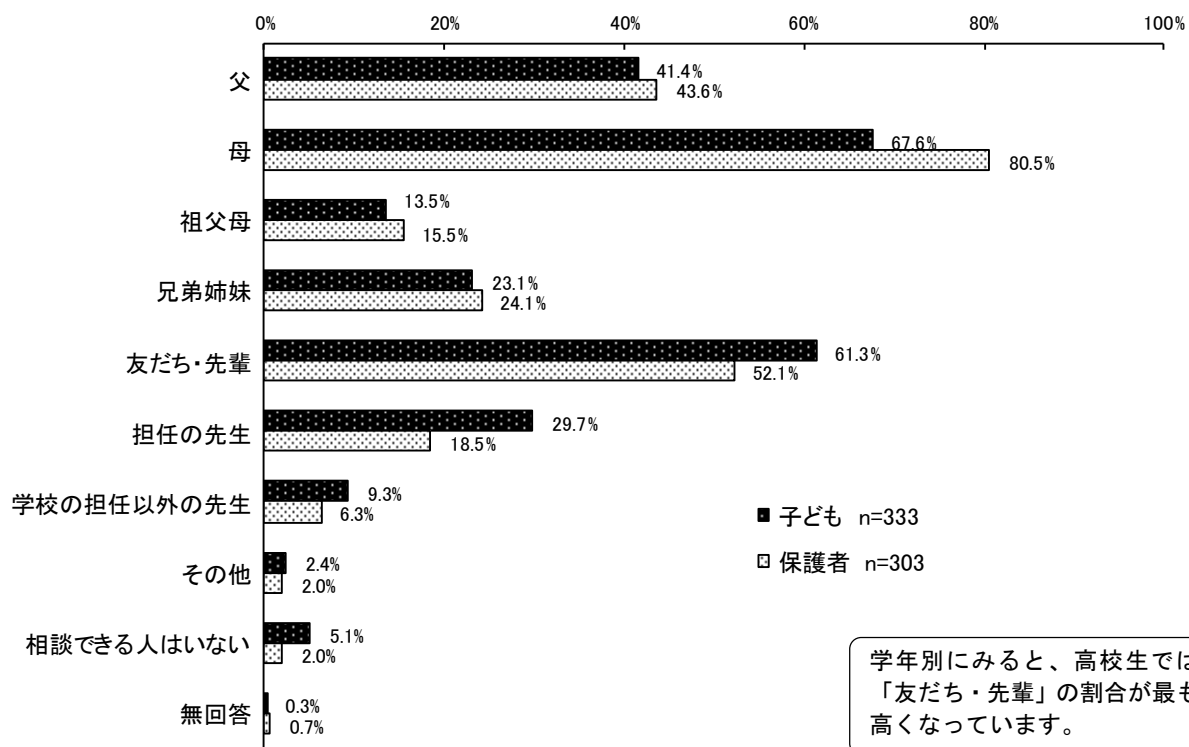
児童・生徒、保護者ともに「将来のこと」「悩んでいることはない」「勉強のこと」が高くなっています。



学年別にみると、小学生は「悩んでいることはない」割合が高く、中学生・高校生は「将来のこと」の割合が高くなっています。

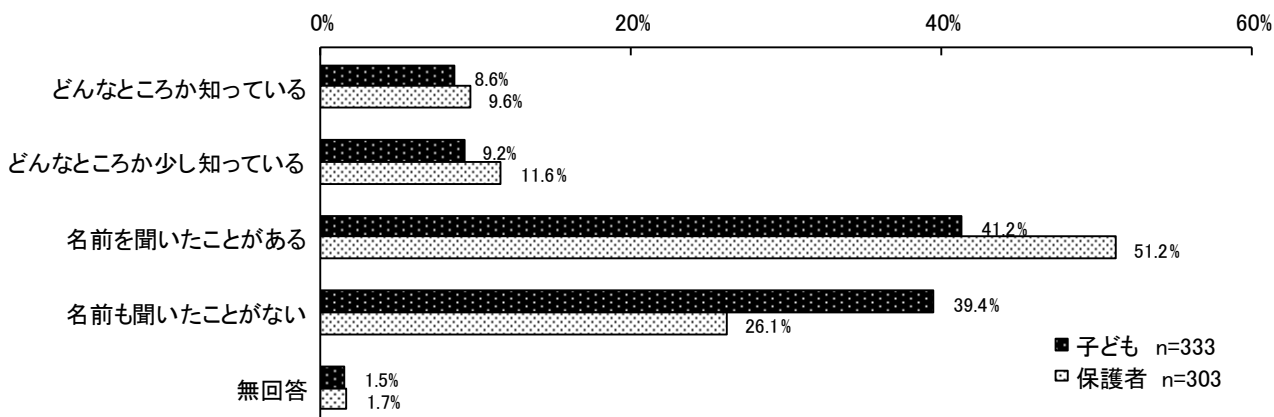
3. 子どもの相談相手について

困ったり悩んだときの相談相手は、児童・生徒、保護者ともに「母」「友だち・先輩」「父」の順になっています。



4. 相談する機関について

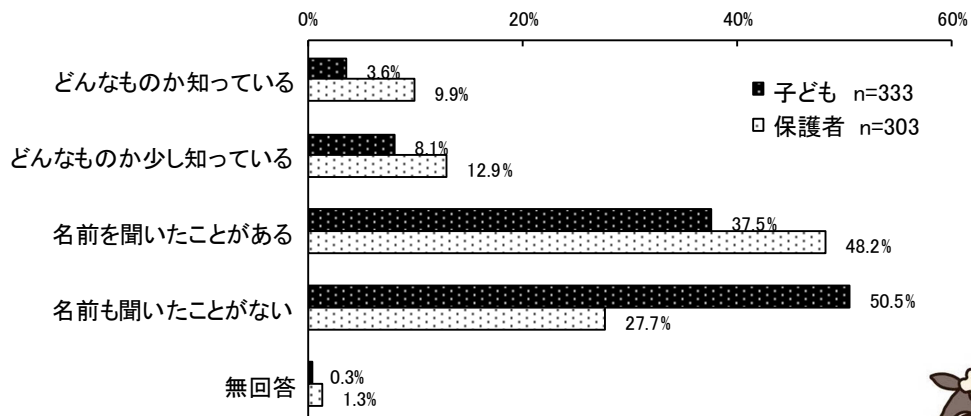
子どもの相談機関を知っているかどうかについて、「知っている」「少し知っている」「名前を聞いたことがある」と答えた児童・生徒の割合は59%、保護者は72.4%となっており、保護者の方が周知がすすんでいると言えます。



相談機関別にみると、「青少年相談室」の認知度が最も高く、児童・生徒は75.9%、保護者は84.5%となっています。次いで「家庭児童相談室」、「子どもの権利救済委員会」の順になっています。

5. 士別市子どもの権利に関する条例について

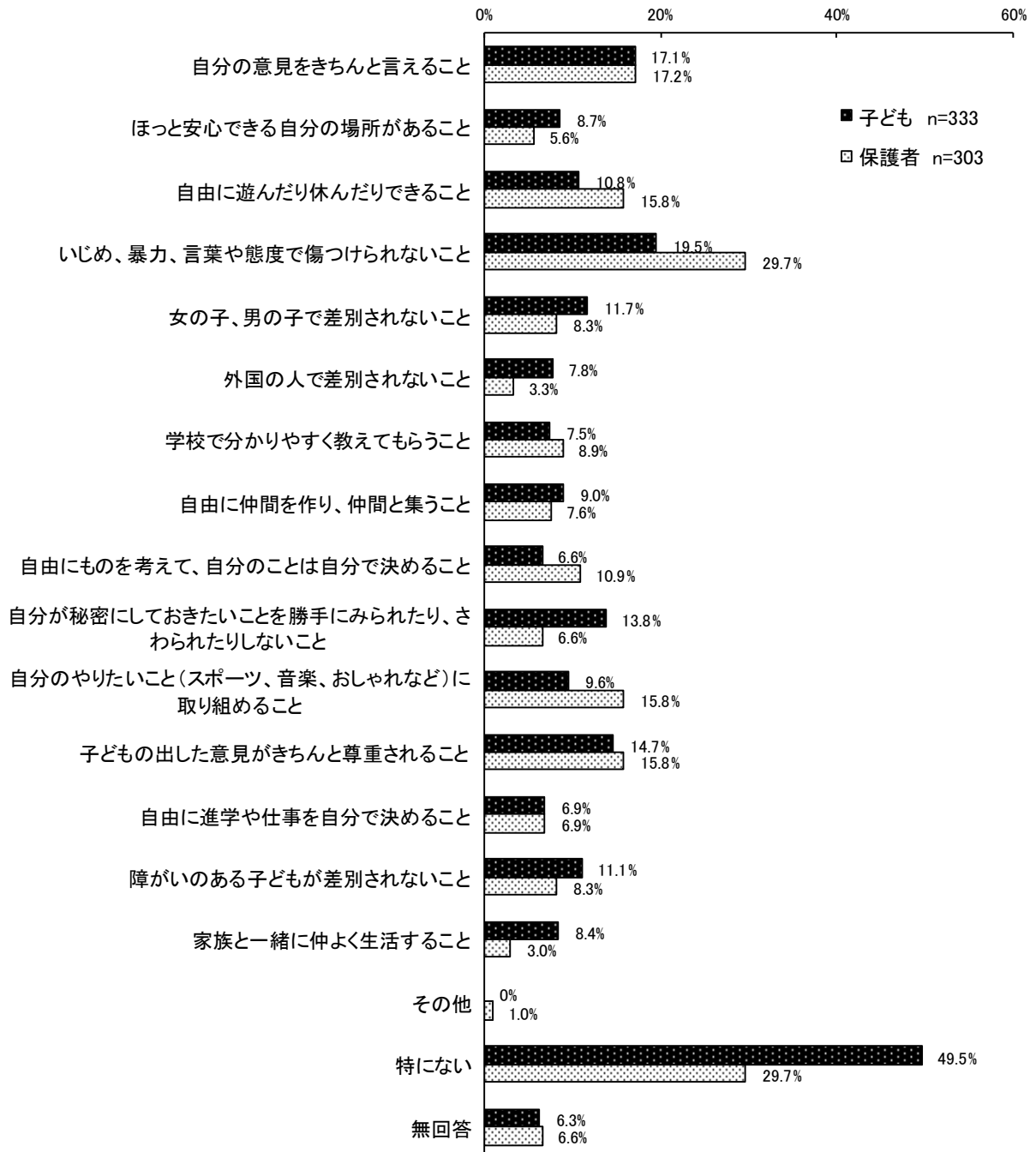
児童・生徒は「知っている」「少し知っている」「名前を聞いたことがある」を合わせると49.2%、保護者は71%となっており、保護者の方が知っている割合が高くなっています。約半数の児童・生徒が「名前も聞いたことがない」となっていることから、周知を強化していく必要があります。



前回のアンケート（平成29年7月実施）の結果と比べると、児童・生徒の「知っている」「少し知っている」「名前を聞いたことがある」割合が2%あがっています。

6. 普段の生活で守られていないと思うこと

児童・生徒は「特にない」が最も高く、次いで「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと」「自分の意見をきちんと言えること」となっています。保護者は「特にない」と「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと」が同数となっており、児童・生徒よりもやや割合が高くなっています。



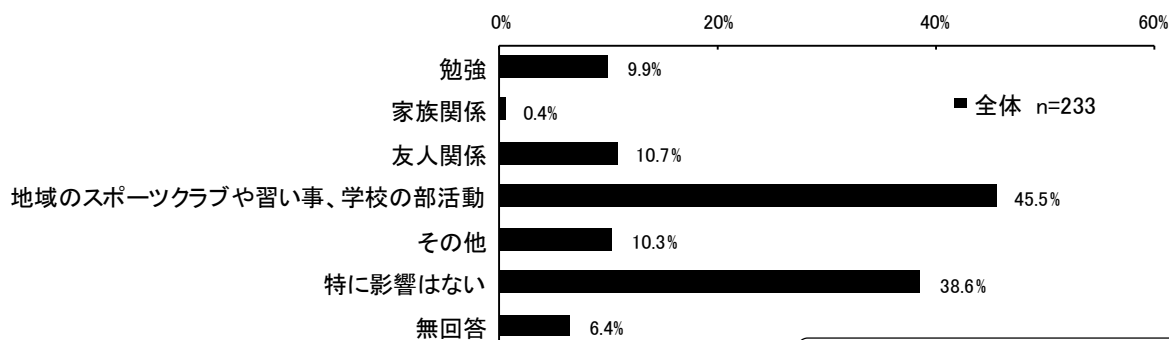
前回のアンケート（平成 29 年 7 月実施）の結果と比べると、「特にない」と答えた児童・生徒の割合が 5.2%あがっています。

7. 新型コロナウイルス感染症に関する調査

今回新たに追加した設問です。

(1) 子どもが考える新型コロナの影響（中学生・高校生）

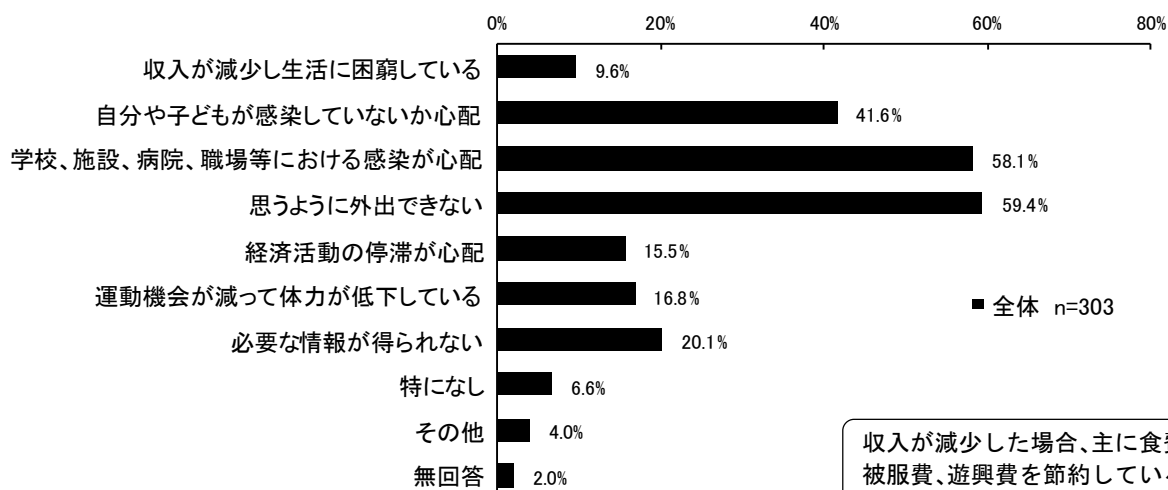
「地域のスポーツクラブや習い事、学校の部活動」に影響があったと答える生徒が半数近くとなっています。具体的には、活動の制限や大会の中止・延期などといった意見がありました。



他に、学習の遅れや友だちとの交流の減少といった意見もありました。

(2) 新型コロナに関する保護者の困りごと

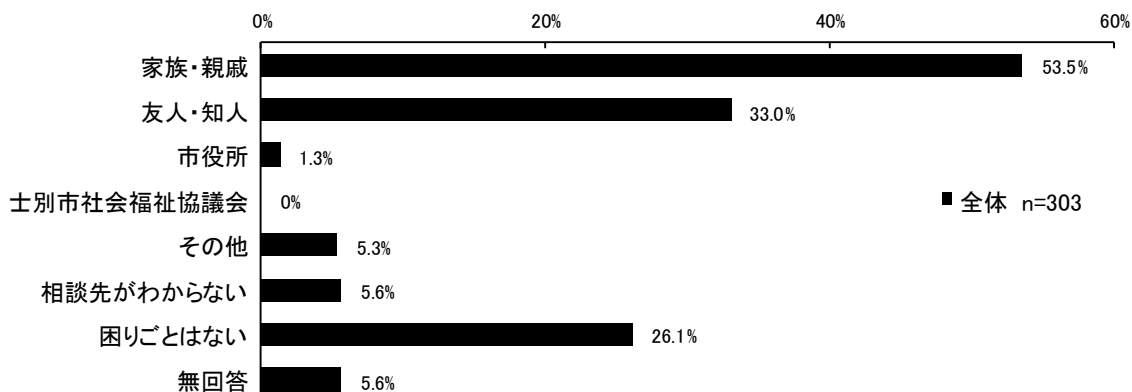
新型コロナの影響により、「思うように外出できない」「感染が心配」という意見が多くありました。



収入が減少した場合、主に食費や被服費、遊興費を節約しているという意見が多くありました。

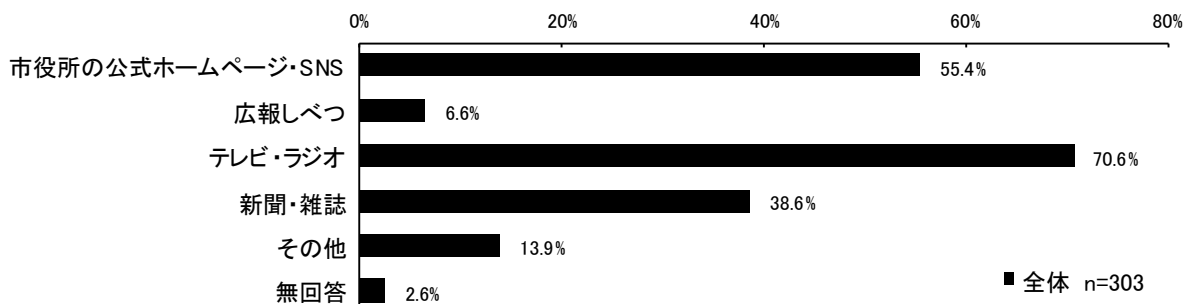
(3) 新型コロナに関する困りごとの相談相手

保護者が困りごとを相談する相手は、「家族・親戚」「友人・知人」の順になっています。



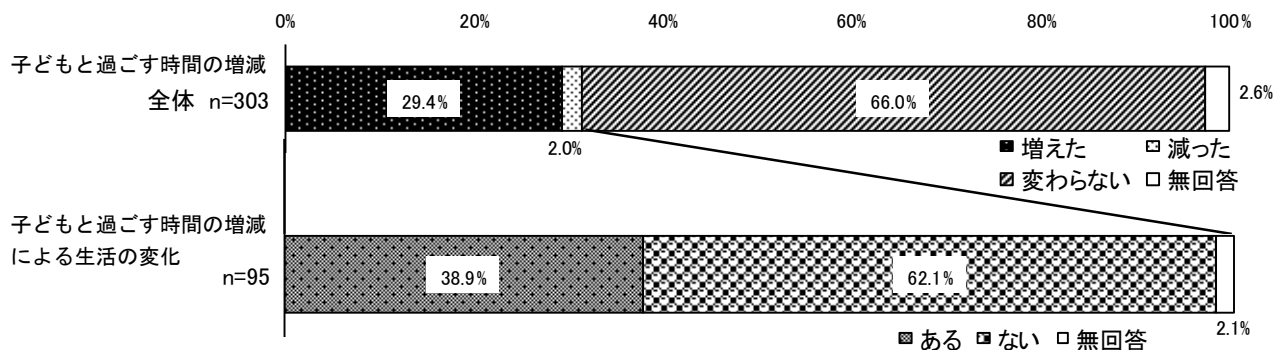
(4) 新型コロナに関する情報

新型コロナの情報をどこから得ているかについて、「テレビ・ラジオ」が最も高く、次いで「市役所の公式ホームページ・SNS」となっています。



(5) 子どもと過ごす時間の増減と、それによる生活の変化

コロナ禍で子どもと過ごす時間に増減があった保護者の割合は31.4%、そのうち、生活に変化があったと感じる保護者は38.9%（全体の12.2%）となっています。



主な生活の変化として、「親子で過ごす時間や会話が增えた」という意見が多数ありました。一方で、「ストレスが溜まったり、親子喧嘩が増えた」という意見もありました。